



一人ひとりが一人の人間として大切にされる社会を目指します

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） の実現のために

平成十九年十二月に内閣府が策定した、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」では、その実現した社会の姿について「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、**仕事上の責任を果たす**とともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった**人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会**」とされています。

平成二十六年度に宮城県が実施した宮城県ワーク・ライフ・バランス実態調査では、「あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉をご存知ですか。」という質問に対して、事業所の47.1%、従業員の67.2%が「わからなかった」と回答しており、認知度が低いことがわかっていきます。

しかし、近年長時間労働への対策や女性の活躍促進、さらに地方創生等、様々な観点から「ワーク・ライフ・バランス」の必要性が注目を集めています。

本市においては、第2次大崎市男女共同参画推進基本計画において、基本的施策に「就業分野における男女共同参画の推進に関する施策」を掲げ、「就業分野においては、**女性の働きやすさや子どもを産み、育てやすい**などの労働環境整備、**女性の社会的地位向上**のためのワーク・ライフ・バランスを推進する事業を実施する。」とし、**安心して働ける労働環境づくりを支援する事業**に取り組んでいます。

今後も、企業や家庭、地域、社会でのワーク・ライフ・バランスについて、みんなで考える機会をもち、仕事と生活の調和の実現を目指していきます。



学問に男女の区別なし

リレー コラム

「女に学問はいらん」と、言われていた明治期に、かの有名な福沢諭吉は『男女の区別なし』という精神をずっと説き続けてきました。1913年(大正2年)、その諭吉没後12年を経て、日本で初めて女性の大学生が誕生します。その受入れ先は、地元宮城の東北大学でした。また、世界に目を向けてみまると、男女共同参画先進国であるノルウェーでは、1882年(明治15年)に女性初の大学生が誕生しています。このように世界の教育分野では100年以上前から男女が平等に学ぶ意義について話し合われてきました。

当教室でも、男女の区別がないアクティブラーニングを取り入れ、全国規模の協働学習イベントで準優勝する等の成果を出しています。これからの教育が目指す重要なファクター（要因）は、

「**男女の区別なく、それぞれの個性を尊重し合う姿勢を育むこと**」だと、

チームで共有し、議論する生徒たちの様子を見て、日々感じています。

ピアノ&学習塾カラフル学舎 加藤みつるさん



***アクティブラーニング**：教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的な能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

(文部科学省用語集より)



地域で輝く女性たちを紹介します

専業農家

氏 家 直 子 さ ん

「農業が大好き。野菜を育てるのがとにかく楽しい」と話す直子さん

は、岩出山地域で農業の6次化に取り組む、就農13年目の農業女子です。

きいちごやパプリカ等の栽培、栽培した野菜に付加価値をつける農産加工、直売所への出荷やイベントでの販売と精力的に取り組む直子さんですが、ここに来るまでには多くの困難があったそうです。中でも惚れ込んで栽培に取り組んだ「きいちご」は、鮮度にこだわって出荷するには難しい果実。行き詰まりを感じていたとき、ドレッシング開発のセミナーに参加し、加工品として販売する道を開きました。



直子さんの“美味い”きいちご & パプリカ ドレッシング

このことが農産加工に取り組むきっかけとなります。栽培と加工を両方行うことで、より深く農業を見ることができるようになったそうです。

お話を聞いていると、**農業に対する真直ぐな姿勢とともに地域への愛情**を感じます。消防団員、地域自治組織の役員、道の駅や農協理事などの任務について社会参画も果たしています。「女性の登用が絶対のようになっていて、どんな団体でも女性を起用しようとする。出てくる女性の数が少ないので何でも私が受けざるを得なくなってしまう」と苦笑いです。地域に貢献したいという思いと、多くを担うことでそれぞれの活動が制限されてしまうジレンマ。「**男女共同の流れが逆に女性への負担となるケースがある**ことを分かってほしい。」同じ思いを持った人たちの集まりなら男女を分ける必要はないと話します。

最近自宅敷地内に加工場が完成。「加工の幅を広げたい。大好きな農業をずっと続けたい。」と、将来への抱負を語ります。**大好きな岩出山の地で着実な一歩を歩みたい**という直子さん。**農業への思いが溢れるその笑顔は、キラキラ輝いていてうらやましい**ほどです。(担当：庁内推進委員会委員 高橋ひとみ)

「田尻もち工房 ふくら」

～地域に活力を～元気！パワフル！和気あいあいな女性たち

田尻通木地区に平成17年2月にオープンし、現在、60代・70代の女性7名が中心になって**もちの加工・販売**を行っています。原材料は、組合員の肥沃な田んぼで**減農薬、減化学肥料**で生産した、こだわりの**みやこがねもち米**を使用しています。最近、その**もち**が口コミで広がり地元客の注文が多くなりました。**切りもち**はさくらの湯に隣接している、直売所「さくらっこ」などで販売しています。この**切りもち**は、宮城県産の良質な農林水産物を主原料に県内で製造された加工食品等で、県が定めた基準をクリアした「**宮城県認証食品(3E食品)**」でありパッケージに表示されています。

イベントで販売される**ずんだもち**や**草もち**は、組合員の畑で収穫した枝豆や自分たちで摘んだヨモギを100%使用しています。彼女たちは、これからも地域のみなさんに**安心・安全で**、おいしく喜ばれる**もち**を提供していきたいという同じ目標をもっています。目標を達成するには、**夫や家族の理解と協力**が必要です。夫は、事業の支援や加工場の掃除の手伝いを、家族は、家のことを分担してくれています。

取材の日、いま、販売を考案中の**玄米もち**を試食させていただきました。その味は、つきたてのふわっとした**もち**にプチプチとした玄米の食感があり、おいしくて思わず顔がほころびました。**彼女たちの、快活でよく笑い、楽しそうに作業している姿、とても輝いていました。**

(担当：庁内推進委員会委員 高橋紀子・菊地孝志)

